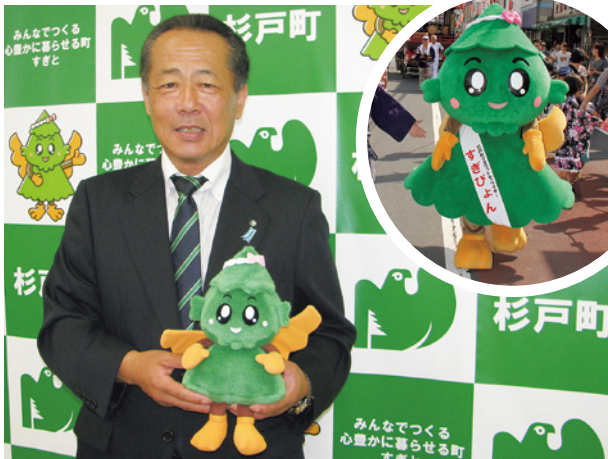
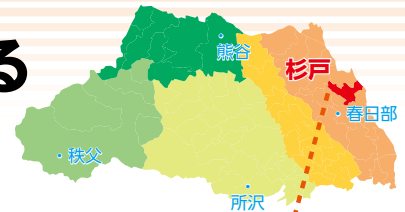


イチ押し

# 地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー②

杉戸町 古谷 松雄 町長 (63歳)



町長イチ押しのゆるキャラ「すぎびよん」は町中で大人気



## 「みんなでよい町をつくろう」を合言葉に

杉戸町は、四季の表情が豊かな田園都市。東に江戸川、西に大落古利根川が流れ、水と緑に囲まれた、どこか懐かしい故郷の風景が広がる町です。

杉戸町で生まれ育った古谷町長は、5年前の就任当初を振り返る一

杉戸町も他の自治体と同様、少子高齢化や人口の減少、三位一体の改革に伴う地方交付税の大幅な減額など、厳しい財政状況の中、安定した町民サービスを提供しなくてはならない…まさに課題が山積していました。そのなかで、「みんなでよい町をつくろう」を合言葉に、第5次杉戸町総合振興計画等に基づ

### 杉戸町の概要

人口 (平成 22 年国勢調査)	46,923人
世帯数 (同上)	16,704世帯
平均年齢 (同上)	44.8歳
生産年齢人口比率 (同上)	64.9%
面積 (同上)	30.00平方キロメートル
名目町内総生産 (平成 23 年度市町村民経済計算)	1,017億9,100万円
事業所数 (平成 24 年工業統計)	71事業所
製造品出荷額等 (同上)	244億7,660万円
事業所数 (平成 24 年経済センサス)	1,520事業所
年間商品販売額 (平成 19 年商業統計)	1,011億4,702万円

く重点課題の解決に向け、さまざまな取組をやってまいりました。

なかでも子育て支援の取組では、こども医療費の支給対象年齢の拡大をはじめ、老朽化した保育園の改築整備に際し、児童館、子育て支援センターを一か所にまとめ、利便性の高い複合施設として整備するなど、子育て世代の支援体制を整えました。

また、江戸川高規格堤防上の町有地を利用した大規模太陽光発電施設「杉戸ソーラーウェイ」の建設支援の取組では、未利用地を

企業に貸付け、事業者が太陽光発電事業を行うことで、賃借料や固定資産税 (償却資産税) が歳入になるとともに、未利用地の維持管理費の削減にもつなげることができました。本事業では、事業者による地域貢献や地域振興が図られるとともに、町民の再生可能エネルギーへの関心が高まり、環境学習の取組が推進されることも期待しています。

こうした取組が各施策へも好影響を及ぼし、財政も着実に改善しています。



大規模太陽光発電施設「杉戸ソーラーウェイ」  
●発電出力：532kW  
●年間発電量：約570,000kWh  
※一般家庭の約150世帯分に相当

## 住民が支える歴史と伝統

杉戸町は1889年 (明治22年) に誕生し、古くは日光街道第五の宿場「杉戸宿」として栄えました。1616年 (元和2年) に開宿された杉戸宿は、2年後の2016年に開宿400周年を迎えます。それに向けて町では、杉戸宿の歴史を物語る史跡や古民家等、見所満載の散策コースを紹介した「杉戸宿まちあるきマップ『日光街道宿場めぐり杉戸宿』」を発行

しました。現在、杉戸宿を熟知した10人のボランティアガイド「杉戸宿案内人」が誕生し、月に2回、「杉戸宿めぐり」を行っています。

また、町の伝統行事「古利根川流灯まつり」は、夏の風物詩としてTV等でも大きく取り上げられています。見所は畳一畳ほどもある町民手作りの大型灯籠。約250基の大型灯籠が古利根川の川面を約1kmにわたり埋め尽くす様は、息をのむほど幻想的で、毎年、県内外から多くの観光客が訪れています。

流灯まつりの保存や継承、文化芸術の発信拠点として整備した「杉戸町流灯工房」は、古利根川沿いの自転車駐車場を改修したもので、工房の外観には、県立杉戸高校美術部のご協力の下、壁画を描いていただきました。灯籠の制作や係留をはじめ、流灯まつりの陰には、多くのボランティアの協力があります。杉戸宿や流灯まつりなど、杉戸町の歴史と伝統は、町を愛する住民によって支えられているということに、深く感謝しております。

### 観光の大きな柱は「自然」と「農業」

東京ドーム2個分の敷地に果樹園や水田、畑などが広がる、まちの駅・道の駅「アグリパークゆめすぎと」は、2001年のオープン以来、多くの人々が訪れ、年間来場者は180万人を数える町内最大の観光施設です。

町内で収穫された新鮮な野菜や加工品を提供する農産物直売所をはじめ、杉戸産の新鮮野菜を使用した料理を提供する食堂、さらには農業体験や収穫体験、バーベキューができ



「農」をテーマにした人と自然、人と人との触れ合いの場「アグリパークゆめすぎと」。週末には県内はもちろん、県外からも多くの人々が訪れて自然を満喫しています。



畳一畳もの大型灯籠が1kmに渡り川面を埋め尽くす様はまさに圧巻！来場者数は毎年5万人を超える。

る施設も整備されています。

今も雑誌やテレビの「道の駅」特集などで紹介され、一日中、一年中楽しめる施設として、高い評価をいただいています。皆さん、是非、足をお運びください。

### 産業団地の拡張による町の活性化に期待

雇用創出による人口増加や安定的な税収確保など、町の活性化に大きく期待するのが、圏央道の開通に合わせた産業団地の整備です。既存の杉戸深輪地区産業団地を拡張し、杉戸屏風深輪地区産業団地として今年度中に都市計画を決定。来年度より企業を募集、平成28年度中には造成を完了し、建築着工・操業開始を予定しています。圏央道幸手ICから5km圏内に、約24haの新たな産業団地が誕生することで、地域経済の活性化や雇用拡大に大きく期待しています。

### 住みごこち100%のまちづくりを目指して

第5次杉戸町総合振興計画は、平成23年度から平成32年度まで続く10年間を見据えたまちづくりの指針です。「みんなでつくる」「みんなが健やか」「みんなで育む」「みんなで歩む」を基本理念とし、誰もが「住んでいる幸せを実感できる」まちづくりを目指しています。自治体を取り巻く環境は年々厳しくなっていますが、チェンジ（変革）、チャレンジ（挑戦）、コラボレーション（協働・協力）、クリエーション（創造）の「4C」を町政に臨む基本姿勢として、「住みごこち100%のまちづくり」の実現のため、全力で取り組んでまいります。

今回は、森林整備協定を締結し、大落古利根川ポケットパークに冬桜を提供いただいた神川町の清水雅之町長にバトンタッチします。